

平成 30 年 4 月吉日

一般社団法人 日本建築学会  
会長 古谷 誠章 様

株式会社 丸栄  
代表取締役社長 濱島 吉充



### 丸栄本館の保存活用に関する要望書への回答

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、平成 29 年 12 月末に貴会より頂戴いたしました「丸栄本館の保存活用に関する要望書」におきまして、当建物についての深いご理解と歴史的価値、貴重なご進言を賜り誠に有り難うございます。

来社頂きました折にもご説明いたしました通り、行政による耐震強度不足の公表以前から耐震補強工事の検討を重ねておりましたが、当社の業績が思わしくないことに加え、構造的にも耐震補強工事には多額の経費負担が予想され、お客様の安全確保を最優先とした場合、本館での店舗営業を終了し、すみやかに取り壊すべきとの判断に至りました。

要望書にございます建物保存につきましても、本格再開発までかなりの時間を要することが想定され、空き家のままでは問題が大きいこと、また広小路通りに面した東側部分の敷地の一部が当社敷地境界を越境しており、行政との約束によりセットバックせざるを得ないこと、などから特に広小路側の壁面につきましては取り壊さざるを得ないと考えております。

なお、今後の対応としましては、外壁タイルの一部ならびにオブジェなどを保存・展示に供したいという提案を頂いている企業様への提供などの検討を進めております。加えて当該建物が存在した記録として、建物外観の画像等を弊社記録として保管することを検討しております。

弊社建物の価値を評価いただき、要望書について熟慮を致しましたが、現在当社が直面しております状況は、極めて厳しいものであり、画像として保管することが精一杯の対応である事をご理解いただきたく存じます。

弊社といたしましては、今回の本館解体後、地元名古屋・栄地区に貢献できる建物の建築を目指し検討を重ねております。何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

敬具